

論文様式

〔ふりがな〕	はるき	たかのぶ
〔氏 名〕	春木	卓伸

受験番号	※
------	---

(※欄は記入しないでください)

課題

現在の区行政の課題と、その解決策について

私は、中学高校の6年間で天王寺区で過ごし、社会人生活は31年間北区で勤務している。人生の大半を大阪市で過ごす中で感じていた私なりの考えを、今回「区政が目指す姿(令和5～8年度)」を始めとする各種資料と照らし合わせ、以下のとおり課題設定するとともに、私が目指す解決の道筋について書かせていただく。

1. はじめに

私は民間企業で子会社経営管理の仕事をしている関係で、東北から九州まで頻繁に訪問しているが、大阪市ほど魅力的な地域は他にないと確信している。私の考える主な魅力は3点「歴史や文化の深さ」「人の温かさ」と高度なおもてなし精神」「大阪に根を張る企業人の活力の高さ」である。

しかし、実際にお住まいの住民は、この魅力に気がついているのだろうか。またこの魅力は地域の発展に生かされているのだろうか。この疑問こそが、私の考える「現在の区行政の課題」であり、この疑問へ答えることが「その解決策」であると考えている。

2. 課題設定と解決策

①歴史や文化の深さを知り、住民の地域へのロイヤルティを向上する

私は現在、天王寺区にある大阪星光学院の同窓会副会長を務めており、担当業務は総務と都市環境部会である。都市環境部会とは同窓会活動を通じて大阪のまちを元気にしようとする活動であり、具体的には、平成26年から年1～2回大阪市内の街歩きイベントを実施している。直近では、今春に大阪城、昨秋には大阪歴史博物館、昨春はβ本町橋から東横堀川・道頓堀川を船で移動し湊町リバープレイスまで。一昨秋は、開平小学校～愛珠幼稚園～山本能楽堂を、それぞれ同窓生以外も含む30人程の同好の仲間とともに訪ね歩いた。

それぞれに場所の持つ力だけでなく、必ずその場所について熱く語る方がいる。大阪市には10年歩き回っても、まだまだ新しい発見があり、大阪市の歴史と文化には底知れない力があると感じている。しかし、私が今になって発見し続けているということは、逆に言えばまだまだ世の中に認知されていないということではないだろうか。

ここでの課題は「歴史や文化の深さを知り、住民の地域へのロイヤルティを向上する」と設定する。現在、大阪市では活力ある地域社会の実現に向け、「地域活動協議会」による自律的な地域運営を進めていると学んだ。この活動をさらに進化・深化させることができれば、より豊かなコミュニティがつくれるのではないかと、そのように考える。

従前の活動に私なりの解決策を付加するならば、地域の歴史や文化の深さを知り熱く語ることでできる方々と、地域コミュニティとをつなぐ仕掛けをつくりたいと考える。歴史と文化を知ること

で地域に住むことの誇りと責任が増し、地域への住民のロイヤルティは高まり、より質の高い地域が築けるのではないかと考える。

②人の温かさと高度なおもてなし精神を、地域全体で子育てする環境の創造に生かす

本年7月に発表された人口動態調査で、大阪市は転入超過が2年連続全国最多であった。旺盛な人財需要を背景に若年層の流入が多いとのことである。一方、自然減は横浜市に次いで2番目に多く、出生率が低く他地域からの人口流入に依存する「ブラックホール型」と分類されている。

ここでの課題は「人の温かさと高度なおもてなし精神を、地域全体で子育てする環境の創造に生かす」と設定する。現在取組みをされている「こども誰でも通園制度」や保育料完全無償化など、仕組みの充実を図られている点については私自身も推進の一翼を担いたい。加えて私の考える解決策としては、行政が整える仕組みに、当事者以外の住民が積極的に関与する仕掛けをつくることである。例えば、高齢で元気な方々の温かさやおもてなし精神を生かす方法は考えられないか。協力的な方々に名誉を与える区独自での認定制度などはできないか。皆さんと議論し、できることから実行していきたい。目指すは、「子育てに協力的な地域」とネットで検索すると一番に当該区が表示され、出産を考える世代がこぞって住もうとする地域環境の創造である。

③企業人の活力をまちの活力へ

私が考える大阪市の三つ目の魅力は「大阪に根を張る企業人の活力の高さ」である。定性的な言い方となるが、取引先であれ、勉強会等で一緒になる経営者や企業担当者であれ、大阪に根を張る企業の方々は他エリアで出会う方々に比べ段違いに活力が高い。しかし、皆さんの活力が地域や住民の発展・成長にうまくリンクしているのかについては疑問がある。

ここでの課題は「企業人の活力をまちの活力へつなげる」と設定する。高齢者の幸せ度を上げるアイデアも、このまちで起業しようとする人を支援するアイデアも、事業を進める中でそれぞれに持っているものである。私の解決策は、企業人との対話の機会をできるだけ多く持ち、皆さんのアイデアを引き出し、実行する場を提供することである。私の知る多くの人には自らの活力をまちの活力につなげることに積極的になってくれる。私はそう信じている。

3. まとめ

以上に述べた課題設定と解決策は民間企業に勤める私の視点であり、区長の役割とズレている部分もあると思われる。しかし、私はズレのある部分については早期にアジャストできる調整力を持ち合わせていると信じており、これまでの経験とスキルを生かし、地域の発展と住もう人の幸せに貢献していきたいと考えている。

以 上